

**厚生労働省省内事業仕分け（(財)がん集学的治療研究財団）
仕分け人（5名）の評決結果**

○ 1－①事務・事業（がん臨床研究推進事業<補助>）

改革案では不十分 3人	1人	① 事業そのものを廃止
	0人	② 事業の効率性を高めた上で、補助を廃止し、国で直接実施
	0人	③ 事業の効率性を高めた上で、補助を廃止し、自治体へ事業を移管し実施
	1人	④ 事業の効率性を高めた上で、他の民間法人へ補助を行い実施
	1人	⑤ 法人で事業継続するが、更なる見直しが必要（実施方法の見直し・補助金の削減など）
改革案は妥当 2人		

<具体的な意見>

【① 事業そのものを廃止】

- ・少額の中途半端な事業を続けるよりは思いきってやめるべし。

【④ 事業の効率性を高めた上で、他の民間法人へ補助を行い実施】

- ・法人の統合などがん関連の体制を全面的に見直すべき。その上で予算を増やすことを検討してもいいのでは。

【⑤ 法人で事業継続するが、更なる見直しが必要】

- ・がんの臨床研究はいろんな組織で取り組んでいるが、患者は一元化された総合的な情報を求めている。全体としての取りまとめを国として（強権発動も視野に入れて）進めるべきと考えます。

【改革案は妥当】

- ・もっと中身を明確にしていきたい。臨床試験と両輪で大切であると言えるのであれば、なぜ当財団で行うのかをもっと示して下さい。

○ 1-②事務・事業（インターネットを活用した専門医の育成等事業<委託>）

改革案では不十分 2人	1人	① 事業そのものを廃止
	0人	② 事業の効率性を高めた上で、補助を廃止し、国で直接実施
	0人	③ 事業の効率性を高めた上で、補助を廃止し、自治体へ事業を移管し実施
	0人	④ 事業の効率性を高めた上で、他の民間法人へ補助を行い実施
	1人	⑤ 法人で事業継続するが、更なる見直しが必要（実施方法の見直し・補助金の削減など）
改革案は妥当 3人		

<具体的な意見>

【⑤ 法人で事業継続するが、更なる見直しが必要】

- ・システムの組み方を含め、抜本的な見直しと効率化が必要。クラウド活用でもっと安くできる。

【改革案は妥当】

- ・「がん治療学会」でより広い層が使えるようになるのは賛成。
- ・メンテナンス、アップデートは重要。

○ 組織・運営体制

改革案では不十分 4人	
改革案が妥当 1人	

<具体的な意見>

【改革案では不十分】

- ・ 組織は残してもよいが、データベースは国レベルでとりまとめるべきである。
- ・ 業務量は減少していくのだから仕事の進め方の効率を高めるなり、他の機能を持つなりの工夫が欲しい。
- ・ 今後、高齢化の中で医療費は膨れ上がる。B b y Cの観点でも、もっと予算を投入することもあり得ると思う。
- ・ インターネットを活用した育成事業がなくなることであり、さらなる組織のスリム化を図るべきではないか。
- ・ 職員数を削減→他法人に統合すべき。

【改革案が妥当】

- ・ 臨床試験を行うためには、ぎりぎりの人数で自前で努力されていると思う。
- ・ 国からの事業においても上記同様の熱意をもって中身を明らかにしつつ、方向性をアピールしてもらえたらと思う。